

2021年3月期の業績について

■ 損益の状況

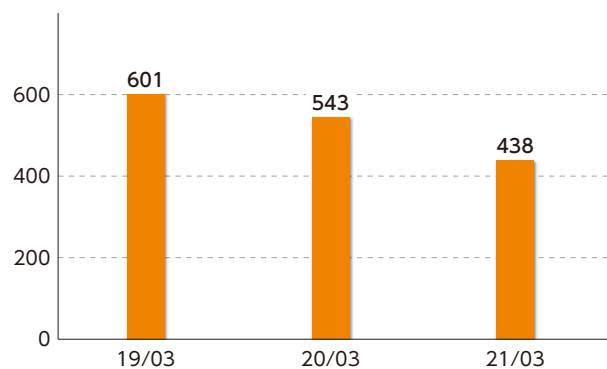
2021年3月期連結決算において、経常収益は、前期比105億円減少して438億円となりました。その内訳は次の通りです。資金運用収益は、貸出金利息および有価証券利息配当金の減少等により前期比55億円減少、役務取引等収益は前期比27億円減少、その他業務収益は、外国為替売買益や国債等債券売却益の減少等により前期比28億円減少しました。また、経常費用は、前期比1億円増加し445億円となりました。その内訳は次の通りです。資金調達費用は、預金利息の減少等により前期比14億円減少、役務取引等費用は前期比2億円減少、人件費や広告宣伝費の圧縮等による営業経費の前期比24億円減少など、複数の

減少要因があったものの、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による経済環境の悪化を主要因として信用コスト（貸出金償却、貸倒引当金繰入額、債権売却損）が前期比48億円増加した結果、全体としては1億円の増加となったものです。

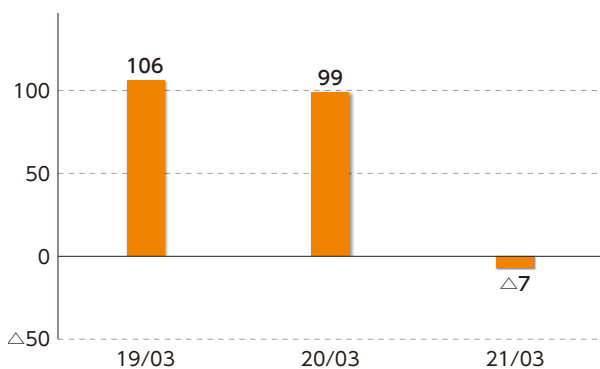
以上の要因により、経常損失は7億円となりました。さらに、事業構造の再構築に要する費用19億円（固定資産の減損損失7億円を含む）を計上したこと等で、税金等調整前当期純損失は26億円、親会社株主に帰属する当期純損失は23億円となりました。

経常収益(連結)

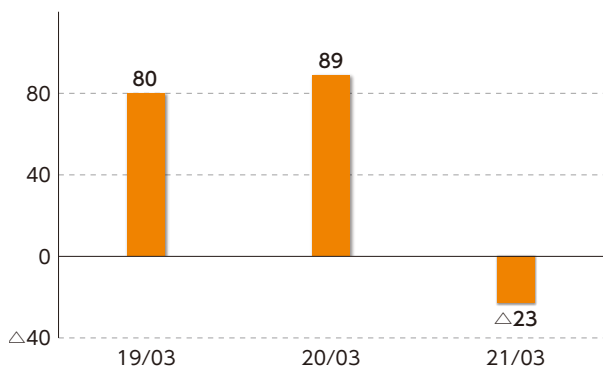
(億円)

経常利益(連結)
(△は経常損失)

(億円)

親会社株主に帰属する当期純利益(連結)
(△は親会社株主に帰属する当期純損失)

(億円)



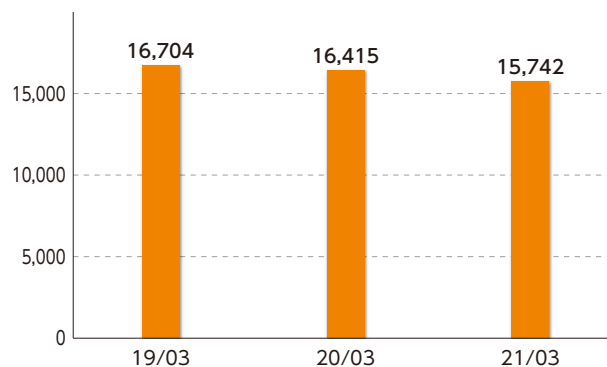
■ 財政の状況

2021年3月期において、貸出金の当期末残高は、前期末比4%減少し、1兆5,742億円となりました。有価証券の当期末残高は、前

期末比13%減少し、1,916億円となりました。預金の当期末残高は、前期末比6%減少し、1兆7,372億円となりました。

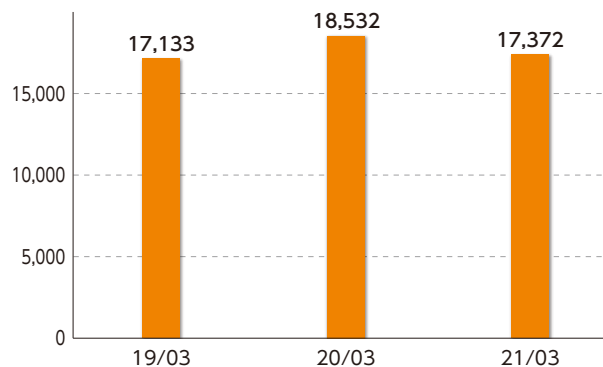
貸出金残高(連結)

(億円)



預金残高(連結)

(億円)



■ 不良債権比率

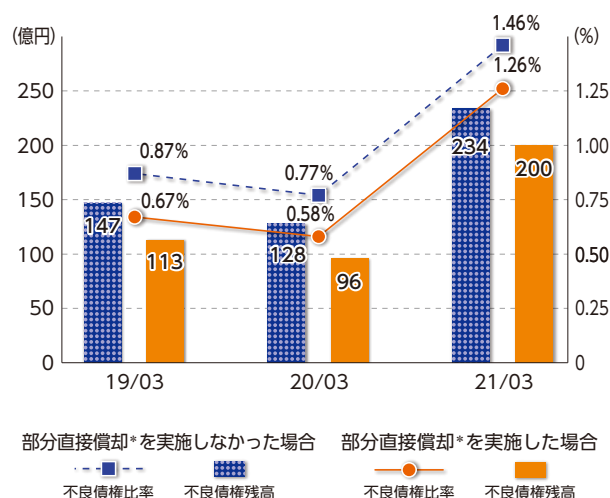
2021年3月期末における金融再生法開示債権比率(いわゆる不良債権比率)は、部分直接償却*を実施しなかった場合では前期末比0.69%上昇し1.46%、部分直接償却を実施した場合では前期末比0.68%上昇し、1.26%となりましたが、依然として低位で推移しています。

■ 自己資本比率

2021年3月期末の連結自己資本比率は11.27%となりました。当行ならびに当行グループは、国内業務のみを営む金融機関として、金融庁の告示に基づき4%の自己資本比率を維持することが求められておりますが、その基準を大幅に上回り、健全な水準を維持しています。

不良債権残高・比率(連結)

(億円、%)



* 部分直接償却とは

破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、資産の自己査定基準に基づき、債権額から担保の評価額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額する会計処理のことをいいます。

自己資本比率(国内基準、連結)

(%)

